



# 「アルプス学概論」

NPO法人  
静岡山の文化交流センター

# 1.南アルプス学

2007年、“世界自然遺産”登録を目指し、南アルプスの普遍的価値、学術的知見の集積を開始

2009年、南アルプス総合学術検討委員会設置  
「地形・地質」「生態系・生物多様性」  
「自然景観・共生」3部会  
調査・研究→学術的知見統合

2010年、「南アルプス学術総論」刊行

## 2.南アルプスの特徴

地形・地質：

1. 隆起と崩壊を続ける山地、100万年前から急速隆起（年3mm）、豊かな植生を持つ地形が発達
- ② 長野・山梨・静岡県にまたがる3,000m級山々の連なる重量感ある日本を代表する山岳景観
3. 浸食による深い溪谷：V字谷特徴(北アルプス：氷河が削ったU字谷)

## 2.南アルプスの特徴

生態学的：

1. 高山帯に周北極性高山植物(氷河期の遺存種)と氷河地形が残存
2. ハイマツ群落と雷鳥生息、世界の南限地(地球温暖化の影響受けやすい)
3. 2000mの標高差、鬱蒼と茂った広大な天然林が発達

## 2.南アルプスの特徴

気候的：

1. 日本屈指の多雨地帯

雨の南アルプス、雪の北アルプス

2. 四大河川(富士川、安倍川、大井川、天竜川)の源流。

# 2.南アルプスの河川図

四大河川 (富士川、安倍川、大井川、天竜川)



国土地理院地図 (電子国土WEB) 一部改変



### 3.南アルプスの世界的価値(生態学的側面)

世界の南限に位置する

- ① 周北極性高山植物(氷河期の遺存種)  
キタダケソウ、タカネマンテマ、チョウノスケソウ、ムカゴトラノオ、ムカゴユキノシタ  
温暖化が進むと絶滅の可能性がある。
2. ハイマツ群落と雷鳥生息：地球温暖化で生存が危うい。  
チョウゲンボウ、猿の補食、鹿の高山植物被害の影響、登山者のゴミ、食べ残し等

## 4. 現在の問題点

1. 野生動物(鹿)の繁殖過多、  
高山植物の食害
2. JR東海リニア新幹線  
トンネル工事の影響

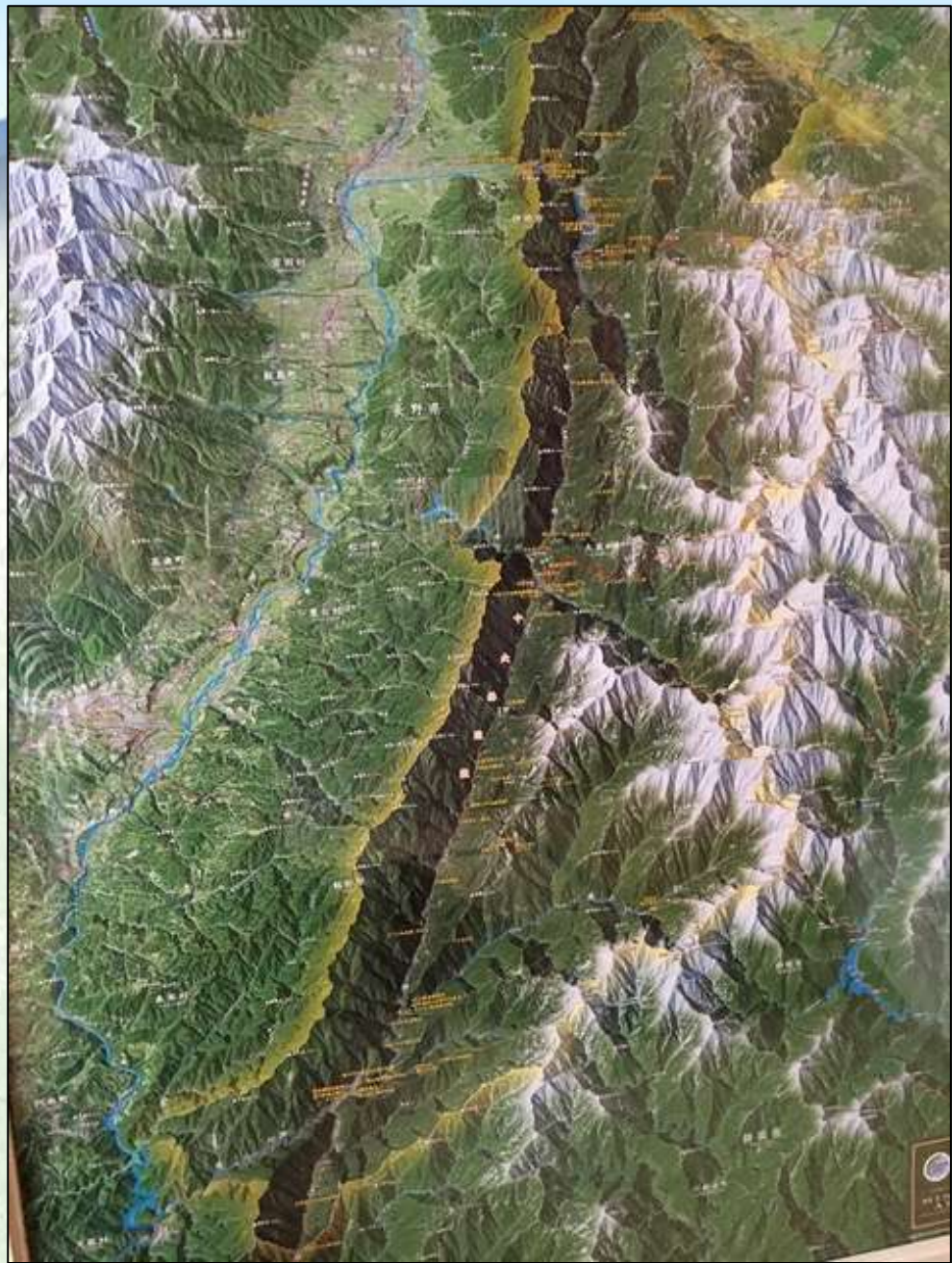


## 5.静岡市民：関心の低さ(南アルプスに関する)

第三次静岡市総合計画書(2015→2022)に何ら記載がない。平野部と海と里山で満足。

静岡から南アルプスは見えない。それが静岡人の関心の低さに繋がる。長野・山梨県は常に眼前にアルプスがある。

# 6.南アルプス



宇宙からの写真

## 7. 雷鳥問題：

富山県、石川県、岐阜県、長野県、山梨県は雷鳥個体数の減少、保護対策を共同推進。

富山・岐阜・長野県の県鳥は雷鳥

静岡市も南アルプス南部に雷鳥生息地があるが、静岡市動物園に雷鳥はいない。



# 8.関係 10市町村と南アルプス

## 関連自治体

静岡県 - 3,386ha (9.47%)

静岡市葵区  
川根本町

山梨県 - 18,286ha (51.15%)

韮崎市  
早川町  
南アルプス市  
北杜市

長野県 - 14,079ha  
(39.38%)

富士見町  
伊那市  
大鹿村  
飯田市



Yamagata

Mt. Fubuki Mt. Katsuragi Mt. Sengoh

Mt. Kita

Mt. Aino

Mt. Katsuragi

Mt. Shiroi

Mt. Koguchi

Mt. Arakawa

Mt. Akashi

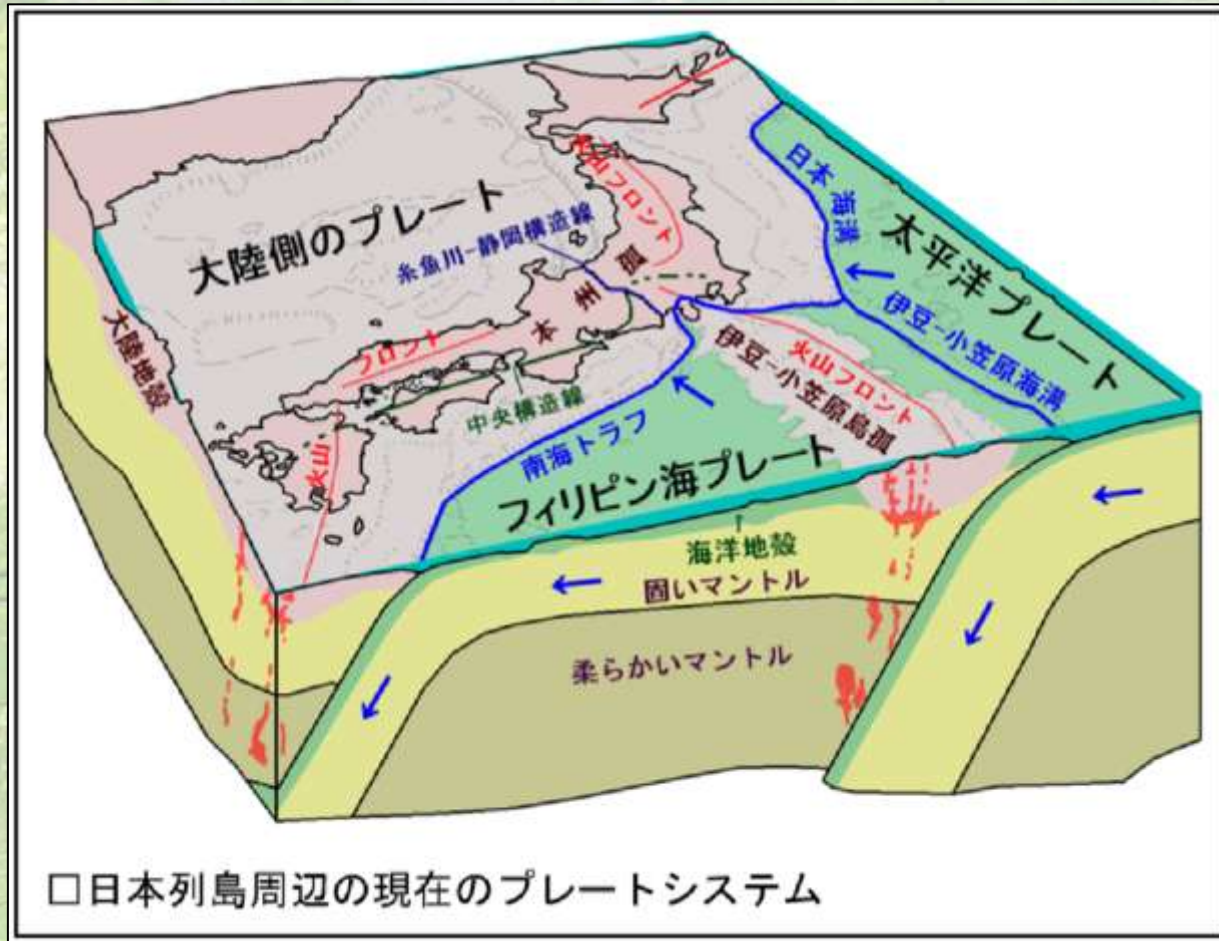
Mt. Inari

Mt. Katsuragi

Mt. Tokai

Mt. Daisetsu

# 9. ひしめき合う4つのプレート



# 10. 赤石沢のV字谷



中盛丸山から見た赤石沢のV字谷

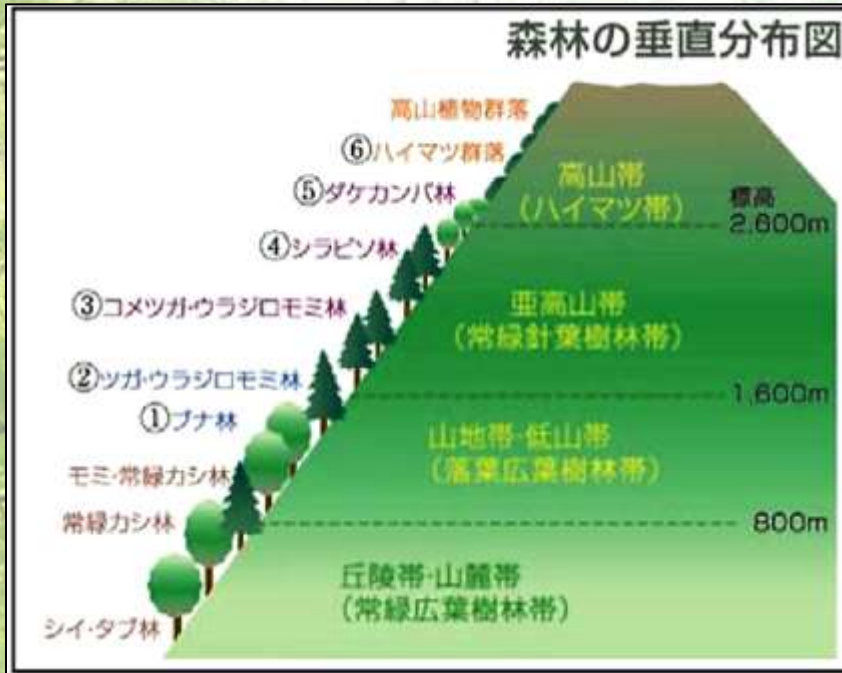


紅葉の牛首峠から赤石谷のV字谷をとおして赤石岳を望む

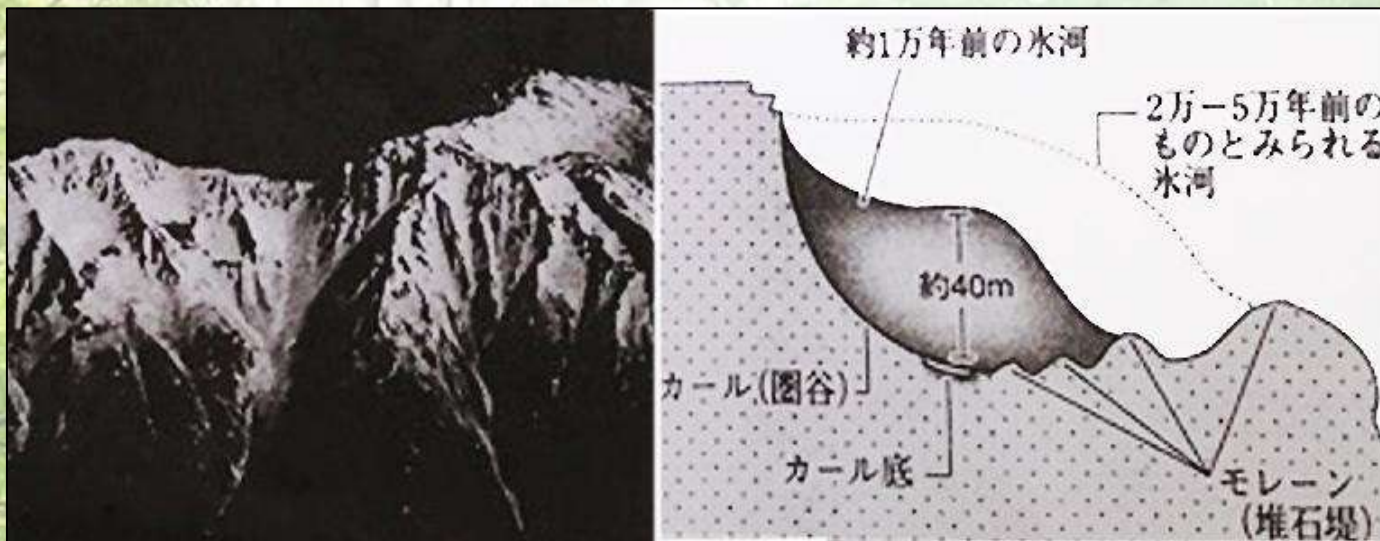


南アルプスの定高性を持つ山稜とそれらを削り込むV字谷  
(静岡新聞社提供)

# 1 1.南アルプス森林植生図、森林垂直分布



# 1 2.氷河地形



飛行機から見た荒川三山

氷河地形(カール)の模式図



# 1 3.高山植物（氷河期の遺存種）

チョウノスケソウ



# 1 3.高山植物（氷河期の遺存種）

タカネマンテマ



# 1 3 .高山植物（氷河期の遺存種）

ムカゴトラノオ



# 1 3.高山植物（氷河期の遺存種）

ムカゴユキノシタ



撮影 村松正文

# 14.高山植物 南アルプス固有種

キタダケソウ



# 14.高山植物 南アルプス固有種

キタダケトリカブト



# 14.高山植物 南アルプス固有種

キタダケキンポウ  
ゲ



# 14.高山植物 南アルプス固有種

キタダケナズナ





# 15.氷河時代の生き残り：雷鳥



# 16. 広大な天然林(高山帯下)

大井川源流の森林と赤石岳



# 17. 広大な天然林(高山帯下)

シラビソ林、蝙蝠尾根



# 18.南アルプスの自然景観

## ①赤石岳



富士見平から赤石岳



笹ヶ岳山頂から赤石岳&荒川三山



千枚岳手前から赤石岳

# 18.南アルプスの自然景観

## ①赤石岳



冬の赤石岳



白蓬の頭付近から赤石岳

# 18.南アルプスの自然景観

## ②悪沢岳



中岳のコルから悪沢岳

# 18.南アルプスの自然景観

## ③聖岳



上河内岳山頂から聖岳と上河内岳

# 18.南アルプスの自然景観

## ④光小屋



センジヶ原と光小屋



# 19.歴史

## 1. 大井川上流にやってきた人々(戦国時代)

- ・ 田代：先祖は信州遠山から、焼畑、諏訪神社
- ・ 小河内：先祖は甲斐国から、木工加工、金の採掘、木材運搬、大井神社

# 19. 歴史

## 2. 金山の歴史：



図1 安倍川及び大井川における産金遺跡の分布図（出典「見る読む静岡歴史年表」）

# 19.歴史

## 3. 林業と川狩り(江戸時代)

### 寸又川流域の自然林、大規模伐採の記録

- ・ 1614(慶長9)年2代将軍徳川秀忠の時代、駿府城本丸築城用材ケヤキ、ツガ、ヒノキ等25万本伐採
- ・ 1618～1644年、浅間神社用材、江戸城本丸築城用材等21万本伐採、1636(寛永13)年駿河屋孫衛門が1,100余名の人夫で、3年がかりで6万本伐採
- ・ 1698(元禄11)年から3年間に紀伊國屋文左衛門が松木郷蔵と上野寛永寺根本中堂用材34万7000本伐採の記録

# 19.歴史

## 3. 林業と川狩り(明治～昭和時代)

頭 明治期、寸又川流域の山林は御料林、昭和2年に千  
国有林

その後、大井川上流における林業を大きく変えた  
もの

に、索道(空中ケーブル)がある  
二軒小屋のはるか上流から、標高2000mの尾根を超え  
て山 梨県側の西山温泉のはずれまで、約30kmの索道が張ら  
れ、 伐採した木材を一気に運ぶ“白剥索道”が昭和40年に完  
成

昭和39年、木材輸入自由化により、林業は低迷

# 19.歴史

川狩り：鉄砲堰(越中式)東俣上流にて



昭和25年頃の鉄砲出し



川狩りの様子（出典：「井川山岳会記念誌」）

# 19.歴史

## 4. 山犬信仰と自然共生(江戸時代～現在)

田代地区は明治初めまで、集落を山犬(オオカミ)の害を防ぐために柵をめぐらしていた。オオカミは焼畑農業には作物の害獣(イノシシ、シカ)を追い払う益獣だった。

田代の大井神社では、一頭の子犬が右向きに座っている図柄の神札を発行している。これは、疫病よけ、猪鹿よけの伝承がある。



# 19.歴史

## 5. 電源開発

現在、大井川に10個のダム、  
15地点の発電所がある。

最大出力68万kwの電力供給

昭和32年井川ダム、昭和  
37・38年に畑薙第一、第二  
ダム完成

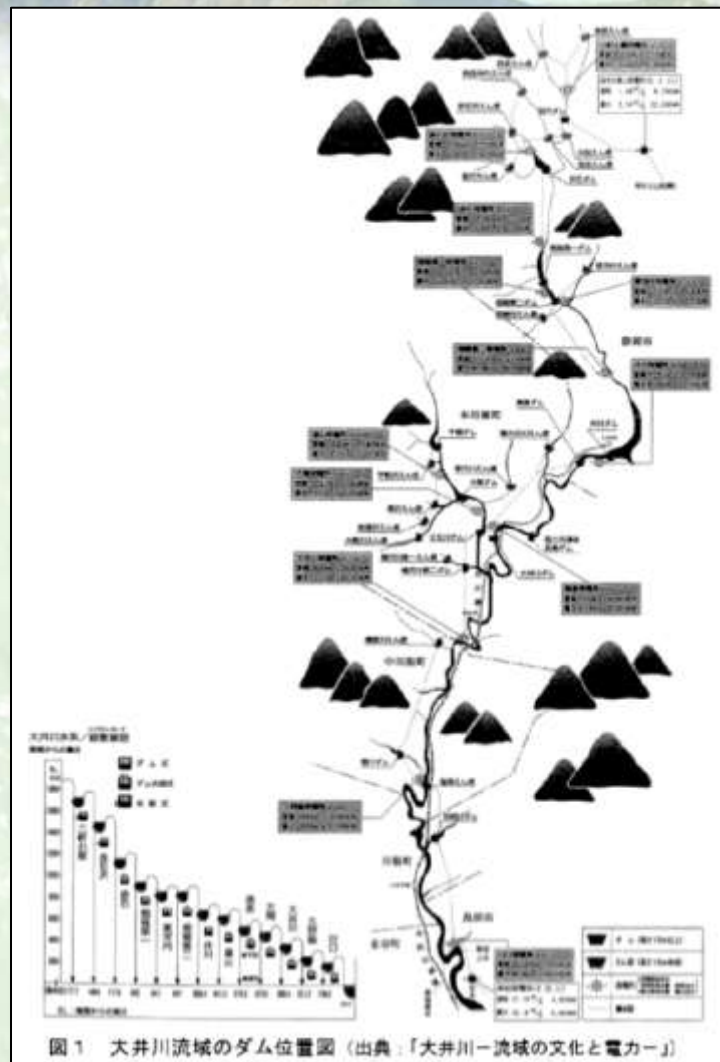


図1 大井川流域のダム位置図 (出典:「大井川流域の文化と電力」)

大井川流域のダム発電所位置図

# 19.歴史

## ⑥ 登山の黎明

- ・ 明治14年8月、アーネスト・サトウは遠州秋葉神社から川根街道を通り、長尾に出て、井川に入り、田代、小河内間に架かる笏橋にひるんで引き返し、本村から笏橋を渡り、大日峠を越えている。
- ・ 明治16年8月、フォッサマグナを発見したナウマンが赤石岳に登頂。
- ・ 明治25年8月、W. ウェストン大鹿村から小渋川を遡行して赤石岳登頂。
- ・ 明治45年7月、中村清太郎イザルガ岳から上河内岳、聖、赤石に登頂。この時に案内したのは田代の猟師滝浪松次郎。



## 20.日本三大崩れ(関連事項)

- ・大谷崩：静岡県

宝永地震(1707年)により山体崩壊した。安倍川水系。

- ・稗田山崩れ：長野県

信州小谷村にあり、もともと崩壊の起こりやすい地盤

の

地域で、小規模な崩壊や土石流は度々発生していた。大崩壊の4日前に台風が通過し、記録的な降雨が報告された。

1911(明治44)年8月山体崩壊、翌明治45年(1912)4月26日に2

回目

の崩壊、同年5月4日には3回目の崩壊。そして7月21日からの豪雨で

22

日に天然ダム(長瀬湖)決壊、わずかに残っていた人家も流失した。

- ・鳶山崩れ：富山県

# 20.日本三大崩れ

- ・大谷崩



写真国交省静岡事務所提供



**ご静聴ありがとうございました**